

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104500		
法人名	有限会社 ゆう		
事業所名	グループホーム GARDEN-HOUSE		
所在地	長崎市宝栄町4番19号		
自己評価作成日	平成28年1月14日	評価結果市町村受理日	平成28年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成28年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中での共同生活で、個々の能力を活かし、日常の生活を支えあって笑顔で生活できるよう支援しており、日常の生活だけではなく、季節を感じられる様々なお祭りや、お花見、外食などを取り入れ、楽しみを見つけながら生活していけるように支援しています。 ホーム内でも個別の時間も大切にしながら、全体でのレクリエーションや、グループでのレクリエーション等、笑顔で過ごせる時間を多く持てるように支援しています。 又職員の資格取得に積極的に支援を行い、スキルアップを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の民生委員として30年の経験のある代表者が、高齢者の介護を通じ、地域へ安心を提供したいとの強い思いから開設し13年目を迎える。地域行事には、利用者の椅子が確保される等、地域の中でしっかりと認知されている。利用者同士仲が良く、利用者と職員の笑い声がリビング外に漏れ聞こえ、楽しく生活している様子が窺える。家族の要望で、外出や散歩、外食が多く計画されている事は特長と言える。管理者は職員に長く働いて貰いたいとの思いから、責任を持たせ処遇改善を行ったり、意見聴取の為、意見箱を設置し忌憚のない意見交換ができており、更なるチームワーク強化を目指している。管理者の願いは、やりがいのある職場となつて、職員に届いている。好きな物を食し、行きたい所に外出し、共に生きる喜びを感じて理念である「笑顔」で過ごせるよう支援を続けるグループホームで

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は笑顔、としており、共有し取り組んでいる。又、経営理念も毎朝の朝礼時に全員で唱和し、理念を共有し実践につなげている。	開設当初からの理念は玄関や事務所に掲示している。毎日の朝礼で全職員が経営理念4項目と介護理念である「笑顔」で頑張りましょうと唱和し、心に留めている。新人職員には入社時、管理者が理念を説明し、周知している。利用者が笑顔で生活出来るよう理念の具現化に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などでは、近隣と挨拶や会話をし、交流している。又、地域自治会に入っており、地域のイベント等にも出向き、催し物をみたり、茶道等の体験をしたり、交流している。	自治会に加入し、管理者は役員として地域との連携を図っている。地域の祭りには利用者の席が確保されており、出店で買物する等地域の一員として認知されている。散歩の途中、地域住民と挨拶を交わしている。幼稚園児との触れ合いがあり、中学生の福祉体験を受入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のふれあいセンター祭り等の参加を、認知症での参加とのことで理解して頂き、受け入れていただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価への取り組み状況や報告は行っており、ご家族や地域の方、包括支援センターの方よりご意見や提案を受け、サービス向上に活かしている。	規程のメンバーで年6回開催している。会議では利用者状況や行事報告があり、出席者からの質疑応答や活発な意見交換が議事録から窺える。運営委員の提案で会議場所を、利用者の様子や職員対応が見えるリビングに変更し、離設の対応や身体拘束など事業所の理解を深めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問や不明なことがある場合、地域包括支援センターの方に助言を頂いている。介護相談員も受け入れをしており、協力関係を築くように取り組んでいる。	包括支援センター職員には運営推進会議に出席時、相談したり助言を得ている。市の紹介でボランティアを受入れ、利用者と交流している。介護相談員2名とも連携を図っている。連絡協議会や行政主催の研修を受講し、協力関係の構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないことを大前提としており、玄関の施錠は夜間帯の防犯上の施錠のみとしており、ホーム内での行き来も自由におこなっている。	マニュアルを基に内部研修を実施している。職員2名が身体拘束廃止推進委員であり、全職員、身体拘束の具体的な行為と弊害を認識している。離設の時は一緒に付き添い見守っている。職員は互い注意喚起し合って、スピーチロックを含め身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内のミーティングや、申し送りなどでも話をし、虐待防止に取り組んでいる。言葉掛けなども気を遣い、その場で話し合えるように意識付しており、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用しているご利用者もあり、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前までに不安や疑問はできる限り解消した状態で契約など出来るようにしている。十分に説明をし理解・納得を頂いてから契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に意見箱を設置している。ホームに來られた際に、ご利用者様の様子を伝え、意見交換等は常に行っている。	苦情相談窓口は明文化し、契約時に家族へ説明し同意の署名を得ている。又、意見箱を玄関に設置している。家族の要望は面会時や電話で聞き取り、職員は管理者へ報告している。家族の要望は支援に関することが多く、ケアプランへ反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は都度、管理者等が聞いており、反映できる体勢になっている。	職員は朝夕の申し送り時や業務中に意見・要望を意見箱へ日常的に投函しており、管理者は把握している。事業所は職員一人ひとりに責任ある役割を持たせ、職員のやりがいやモチベーションを上げる仕組みを作り、職員が長く働ける職場作りを推進している。外出の提案や備品の購入など職員意見の反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況を把握し、向上心を持って働けるように支援し勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の状況により、資格取得の為の研修や、スキルアップのための研修参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修や交流会に参加し、意見交換の場を持ってサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報を出来るだけ多く聞き取り、入居後の不安な時期も寄り添い傾聴し、安心を確保できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事にも傾聴し、入居によって、ご家族・ご利用者共に安心できる生活を作りながら、ご家族との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には、その時必要としている支援を見極めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方の能力に応じ、食事作りや後片付け等も行っており、昼食時も利用者の方と一緒に職員もご飯を食べています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方にも出来ることは協力頂き、共にご利用者を支えていく関係を築いている。又、ご家族とご利用者の関係作りもスムーズに出来る様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院や、教会等慣れ親しんだ場所への継続的な関係が途切れないように、支援を勤めている。	利用者には家族や友人、神父等の訪問がある。職員は利用者の生活歴や利用開始前の状況を把握し、墓参りや馴染みの商店へ買い物など支援している。又、家族の協力で自宅へ行く利用者や入居前から通っている所に継続して出掛けている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係作りも、職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了したあとも、連絡を頂いたり、話を聞かせて頂いたりしており、できる限り支援できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや希望は常に把握できるようコミュニケーションをとり、意向の把握に努めている。困難な場合も本人本位に検討している。	職員は、利用者への声掛けや一緒に過ごす時間を多く持ち、思いや意向の把握に努めている。表出が困難な利用者は仕草や表情、家族への聞き取りで検討している。聞き取った思いや情報は、申送りや業務日誌に記載し、職員で共有している。ただし、フェイスシートへの記載はこれからである。	利用者の理解を深め、支援に繋げるために、フェイスシートを充実させることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報を聞き取り、入居後もご利用者より話を聞いたり、ご家族にも確認やお尋ねをし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に対応し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その時々で職員の意見を聞きながら、ご家族の方とも状況を見てもらいながら話し合いを行っており、現状に即したケアを行っている。	家族の意見や利用者の要望や医者の意見を取り入れ、ケアプランを作り、家族へ説明し同意の署名を得ている。退院時や状態の変化がある時は見直している。モニタリングは6ヶ月毎の見直し時に行い、職員はケアカンファレンス時に意見を出している。ただし、ケアプランと介護記録の連動はこれからである。	ケアプランの実施状況の把握と、職員へのケアプランの周知のため、記録と連動する仕組み作りを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を記入し、特記事項などは全体的な日誌にも記入し、職員間で共有できるようになっており、活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じ、柔軟に支援し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の受け入れや、音楽会の参加などの支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を基本にしており、かかりつけ医共関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者の半数は、同じ主治医であり月に2回の往診がある。他専門科を含めて受診は、職員対応が基本で、状態変化時は、家族にも協力を得ている。受診結果は、家族訪問時や電話で報告している。また、受診記録や日誌で職員共有を図っている。緊急時の手順は全職員に周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化などがあった場合は、365日掛け付け医への連絡が出来る状況を作っていて、連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には出来るだけ早期の退院が出来るよう、情報交換や、関係づくり及びお見舞いも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の状況を把握し、ご家族とも話し合いの場をもち、対応をしている。又、医師からの助言等も取り入れ、チームとしての取り組みをしている。	利用開始時、家族には「重度化した場合における対応に関わる指針」を基に、看取り支援は行わない旨を説明し、同意を得ている。状態変化時、家族・主治医を交えて話し合い、状況に合わせて環境が整った施設への紹介となるが、昨年は、家族・医療機関の協力を得て看取りを行った。ただし、今後は指針を原則とする方向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、消防署立会の避難訓練後、心肺蘇生などの訓練を行っている。又、急変時や事故発生時は、職員は応急処置や連絡などの対応は出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	訓練を行い、地域は高齢の方が多いが、社長宅も近く、ホーム長も消防団に入り協力体制を築いている。ホーム周辺にダンボール等の燃えやすい物を置かないなどリスクマネジメントも行っている。	年2回消防署立会い、夜間想定火災訓練を実施している。毎月、機器操作や総合訓練を実施・評価し、次の訓練に繋げている。管理者は消防団に所属しており、連携が取れている。事業所周辺のゴミの整理やコンセントの埃など自主点検を励行している。備蓄は整備したが、自然災害への備えと非常持出の整備はこれからである。	火災訓練だけではなく、いつ発生するかわからない自然災害への備えと緊急時持出品の整備に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方の性格等を考慮し、その方に合った対応に努めています。	入浴時の羞恥心に配慮した対応やトイレ誘導も他の利用者に気付かれないよう耳元で声掛けし、支援している。個人情報ファイルは、所定場所に規定通り保管しており、写真記載も家族に書面で同意を得ている。職員の守秘義務は、退社時も含め徹底している。文書破棄は事業所内で処理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かの時は、ご利用者への問いかけを行い都度確認している。自己決定できない場合は、立場に立って支援できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	優先順位を考えて、希望に沿って支援している。職員や集団行動を優先せず、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んでもらったり、基礎化粧品でのお手入れ、お化粧等、個々の習慣にあわせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は状態に合わせた形態で提供し、準備や片付けも能力を活かし手伝っていただいている。	献立は職員が利用者の希望を取り入れて、利用者と一緒に調理している。アレルギーや嗜好に対応し、利用者の食べやすい形状に合せている。頻繁に出掛けるドライブ外食は利用者の楽しみとなっている。誕生日会には利用者とケーキを作ったり、希望でパン食にするなど食事を楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は確認し、量が確保できない場合は、提供するものを変更したり、医師との連携も取りながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、個々の能力に応じ介助し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じ声掛け誘導をし、支援を行っている。日中は廊下トイレを利用し、個々に応じ、夜間常のみ居室にポータブルトイレを置き、不快なく気持ちよく排泄出来るよう支援している。	職員は、利用者の日々の排泄状況を記録し共有して、各利用者の排泄リズムに合わせた声掛けや誘導支援している。日中はトイレでの座位排泄やパッドを外し布パンツを基本に、出来ることは利用者が行い、出来ない部分を職員が支援するなど排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師とも相談し、内服による排便コントロールを行い、個々に応じた対応をしている。又、腹部のマッサージや飲食物での工夫をおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本入浴日は決まっているが、入る時間帯などの希望には応じている。しかし日中の入浴のみの支援となっている。又、失禁があったり、夏場の発汗が多かったりした場合は、入浴日に関係なく対応している。	入浴は月、水、金の週3回準備し、車椅子利用者は2人介助で湯船に浸かれるよう支援している。利用者によって、体調や気分に対応し、時間を置いて声掛けしたり、希望に沿って同性介助の対応もある。歌を歌ったり、好みのシャンプーや石鹸の持ち込み、入浴剤、柚子湯など入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じた対応をし、気持ちよく眠れる支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は薬剤の変更や追加、排便コントロールによる薬の変化等、常に変化があった時には把握できるよう記載し、情報交換を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションなども全体や個々で行ったり、外出など、楽しみながら生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り外出できるよう支援している。又、家族等にも協力を頂いている。	季節の花見や地域の行事や外出など、毎月、利用者の希望を取り入れながら、外出を計画している。又、天気の良い日は散歩や外気浴など出掛けしている。車椅子利用者はその日の状態で判断している。利用者の希望で、一緒に買い物へ出掛けるなど個別支援を行い、家族と外出する利用者もあり、外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ、個人で管理できる方は管理しており、個人で管理できない方も、買い物などの場合は立替で買い物できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方は事務所より電話を利用し、手紙のやりとりも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除の徹底や匂い等、利用者の方及び職員も不快な思いをしないよう日常的に環境づくりに努めている。	リビングは明るくソファがゆったりと配され、思い思いに寛ぐことができる。また、利用者のピアノ演奏を利用者・職員で楽しむことがある。生け花や季節の飾りで季節を感じる空間となっている。職員が掃除機や乾湿系モップで清掃、換気し清潔な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・ダイニングや居室、共同の場所等、個々の好きな場所で過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ使い慣れたものを持ち込んで戴く様に願っている。又、生活していく中で居室内の環境を家族の方も交え話し合っています。	エアコンとベッド以外は馴染みの物を配置することができ、仏壇や鏡台など持ち込んでいる。壁には利用者作品や家族写真が飾られている。持ち物はクローゼットに収納できるため、広々と過ごしやすい空間となっている。毎朝職員により、掃除機と乾湿系モップで清掃され居室は清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りながら本人が困っている状況であれば、声かけを行う等良き理解者でいられるように支援しています。		